

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470900242		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	ゆうゆう多賀城		
所在地 (電話番号)	多賀城市高崎3-29-1		(電話) 022-389-2406
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 15日, 16 日		

【情報提供票より】(19年 9月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 20人, 非常勤	人, 常勤換算 18.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	360 円	昼食 360 円
	夕食	360 円	おやつ 120 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(9 月 20日現在)

利用者人数	26 名	男性 4 名	女性 22 名
要介護1	6 名	要介護2	10 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まひと内科クリニック・関口内科胃腸科・石巻港湾病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から10分、閑静な住宅地にある3ユニットのホームである。(株)アルテディアの経営で同じ場所に同系列のデイサービスの施設がある。このホームの特徴の一つは「看取り」介護に正面から取り組んでいることである。「看取りに関する指針」を策定し、それに基づいて職員の研修も行なっている。ホームとしてのターミナルケアの実際の経験について、「医療連携とターミナル」という題目で、宮城県グループホーム連絡協議会の第5回実践報告会で報告している。第2の特徴は運営推進会議の発足がきっかけで、地域との関係、特に災害対策について進歩していることである。家族との関係を重視し、満足度調査を実施していることも注目に値する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された要改善項目について、改善計画シートを作成し全職員で検討し取り組んだ。運営推進会議に評価内容と改善シートを提示し協力も求めた結果、防災施策等が著しく進展している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に全職員で討議し、ユニットリーダーが記入し、それらを管理者が取りまとめた。「重度化や終末期」については、高水準の方針と経験をもっているが、自己評価では家族等との関係で、厳しいものとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、外部評価の結果を審議しホームとしての具体的改善案について提起した。その結果、地区防災訓練の実施場所に指定されるなど顕著な効果がでている。防災訓練にて、避難場所の中学校で、地区の皆さんと炊き出しを食べることなどの提言も出されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2007年2月に利用者満足度調査を実施した。11月に家族会に向けて再度実施する予定である。家族会の代表者は運営推進会議の委員にもなっている。家族からの声については、面会時のみならず、金銭報告時などに、返信用の葉書を同封するなどして工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同じ経営のデイサービスセンターと共に「健康倶楽部通信」を発行し、地区内に配布している。ホームの日常と夏祭りなどイベントの紹介である。地区の防災訓練などで、重要な役割を果たすなど地域とは密接な関係が築かれている。毎週水曜日、利用者スタッフ、ごみ拾い、散歩など、エコ活動への参加を通じて子供達とも仲良しになっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現行の理念は母体法人の理念の影響が色濃く打ち出されているので、グループホーム自体の主体性、地域密着型に即した理念に作り変えるため、職員全体で討議している段階である。	○	10月中に全体会議で決定することなので、地域密着型サービスを十分に意識し、日常のケアサービスに具体的に結びつく理念となることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の認識が、日常ケアの心掛けとしても大切なことである、としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	10月実施の高崎地区防災訓練では、避難誘導訓練の会場になっている。地域でのエコ活動にも参加しているが、夏祭りでの「子供みこし」の休憩所として利用してもらったことにより、近隣の子供達が遊びに来るようになった。多賀城市のボランティア協会との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては、各ユニット毎に全員で検討し作成している。前回の評価について、運営推進会議に報告し、要改善点の6項目についても、具体的に改善策を示している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において検討されている内容は、災害対策、外部評価、地域交流、ターミナルケア等についてである。委員からの提案で、「子供みこし」の休憩所として提供したり、防災訓練の会場にもなっている。防災体制に関しては、「赤十字奉仕団第二分団施設班」に指定されたのも運営推進会議の働きによるものである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者からは介護保険制度、成年後見制度、入居者の財産管理等、様々な相談に応じてもらっている。運営推進会議のメンバーでもある。一方ホームの管理者は多賀城市の「介護保険運営協議会」の委員を委嘱されているなど、市町村との連携は密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年初めて家族の満足度調査を実施した。このことにより、家族の意識は10人10様であり、それに対して一律な伝え方をして来たホームの対応が反省点としてあげられた。それぞれの家族と同じ目線で便りも出し、返信用の葉書も同封するなど、角度を変えて家族との接点を増やそうとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成されており、代表が運営推進会議に出席している。家族へのアンケートで満足度調査を実施したが、今後も定期的に実施したいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の結婚等による退職が続き、新任職員によるユニット毎のばらつきは是正や、ユニット間でのキャリア分散などの調整のため、職員の他棟へのヘルプ(1か月以内)を行ったり、入居者が異動棟へ遊びに行ったりと関係性を継続させる努力をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で毎月1度テーマ別の勉強会を実施し、法人内での「エリアマネジャー研修」(静岡、東京、宮城の持ちまわり)も毎月実施している。職員が各種の研修へ積極的に参加するように促し、資格取得の受験等についても便宜を図るなど支援に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会に加盟し、同会主催の実践報告会で事例発表を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者には時々遊びに来てもらい、お茶や食事を皆と一緒にするなどして少しでも馴染んでもらえるようにしている。ホーム側からも家庭を訪問し本人が納得して入居するまでの協力もお願いしている。その際、本人に対して絶対に嘘をついたりしないようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から教えてもらうことが多々あるとし、さすがが人生の先輩だということで、尊敬、共感の念を惜しまない態度で接している。又、食事時の入居者の様子からは職員に対する親しみと信頼の深さを感じとれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望、意向を把握するため、センター方式を採用している。入居者一人ひとりが今、なにを希望しているかを考え、それが叶うよう努力している。本人の言葉を十分に理解し、残された機能の低下抑止にも工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3か月に1度、定期的に作成し必要に応じて随時にも作成している。カンファレンスには家族にも参加してもらい、参加できない家族の意見も取り入れている。計画作成時には、全職員により一人ひとりの特徴をふまえ、検討会議を経て決定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態の変化により見直しが必要になった場合は、家族にも参加してもらい、カンファレンスを実施し、家族の意向も取り入れて介護計画を見直すこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	三棟合同の同好会活動として、料理、手芸、レクリエーション、カラオケの四つがある。デイサービス施設が隣接しているので、プログラムによっては参加する入居者もいる。週に1回程度外泊で自宅に帰ったり、近所の昔馴染みの人とお茶飲みをしたり、又、近隣の年寄りがホームに遊びに来たりもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の意向を尊重し、入居前から受診している、かかりつけ医を継続する入居者が殆どである。緊急時に備え、協力医、訪問医との連携もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで救急搬送に至るまでホームで介護し、入院先で死去されるということを4、5例経験している。重度化や終末期での指針については、市に提出、県の方にも通している。定期的な訪問医療とターミナルに取り組む医療と契約済みである。医療連携体制加算を得ている。県のグループホーム連絡協議会の第5回実践報告会でも報告している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と家族のプライバシーの確保については、常に職員の意識向上を図ると共に、入居者の自尊心を傷つけないよう対応の徹底を図っている。個人情報の取り扱いについては、情報保護に関する規定はあるが開示に関する規定が定められていない。	○	個人情報に関する開示請求があった場合、どのように請求してもらい、誰が開示の判断をするか等、開示手続きは保護と同様重要なので、規定に盛り込んでいただきたい。守秘義務については、「ボランティア」「実習生」等も対象になるので、充分配慮するように周知していただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が入居者のペースでの支援ということを認識している。特に意思表示が難しい人には気を使い、居室で静かに本を読んでいた方、職員と一緒にいたい方とさまざまであるが、本人がやりたいことを選択できるような努力している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に調理は職員が行なうが、下ごしらえや食後の後片付け等、その人の出来ることをしてもらっている。食材の買い物には3～4日に1度入居者2～3名と一緒にやっている。その際もお店は非常に協力的でさりげなく見守ってくれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日ほぼ全員が入浴している。入浴剤を変えたり、馴染みの音楽をかけたり、工夫している。入居者も「職員を独占できる唯一の時間である」と認識し、非常に楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンを開ける係、新聞を取ってくる係等役割が自ずと決まってくる。公園への散歩時、週に1度のエコ活動(ごみ拾い)も行なっている。料理、園芸、レクリエーション等の同好会活動も活発である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	理、美容院はホームへの出張サービスもあるが、馴染みの店に行く人が多く、外出の支援をしている。毎日の散歩に外出する方も5～6名いる。又、食材の買出しに出掛ける時は必ず2～3名の入居者が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵かけは身体拘束の一つであると職員は認識しており、日中玄関に鍵をかけないで済むように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、そのうちの1回は夜間を想定し、避難訓練を実施している。避難時の経路図も各ユニットの玄関脇に掲示してある。職員の2/3がホームから15分以内に居住しているので、緊急時には割合スムーズに集合できるし、近々地域の避難訓練も実施されるので参加を予定している。災害備蓄は3日分用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、一日の摂取量を把握している。体重はひと月に1度計量しているが、必要な場合はその都度計量している。カロリー、バランスなど栄養チェックは同法人の栄養士にメニュー帳を見てもらい助言ももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット共に、新聞、週刊誌、料理本、園芸本等入居者、職員共に読めるようにマガジンラックに整えてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む品物については、家族と相談の上決めている。テレビや大きい時計などがあり、小テーブルや椅子など、一人、二人のお客さんとお茶のみできるような雰囲気である。「仮の宿」に宿泊していると思っている入居者には持ち込みの無理強いはしていない。		